

学界の動向

第58回東日本整形災害外科学会を終えて

松野 丈夫*



[写真1]

去る9月11日、12日の両日、グランドパーク小樽 [写真1] において第58回東日本整形災害外科学会が開催されました。

東日本整形災害外科学会は昭和27年に産声を上げた歴史のある学会で、関東以北の整形外科ならびに災害外科の進歩発展を図ることを目的に設立されました。

旭川医科大学整形外科学講座は平成元年に竹光義治前教授のもと第38回東日本整形災害外科学会を旭川で開催しておりますのでは約20年ぶりの主催となりました。[写真2]

学会のテーマは昨今の医療環境の変化および経済状況の変化を考え「変革の時代の整形外科」としました。



[写真2]

北海道小樽市での開催にも関わらず演題数はほぼ過去最大で一般演題が369題、シンポジウムなどを含むと400題以上の演題が集まり、股関節・脊椎・下肢・上肢・骨軟部腫瘍・看護・リハビリと広く整形外科分野において活発な討論が行われました。[写真3]



[写真3]

特別講演として竹光義治先生（旭川医科大学名誉教授）に「脊柱後弯症の基礎と臨床 ～我々が学んだこと～」、土方浩美先生（東京女子医科大学名誉教授）に「股関節外科とともに ～寛骨臼回転骨切り術(田川法)～」、中村耕三先生（東京大学整形外科教授）に「ロコモティブシンドローム ～運動器医療の新しい課題～」、松下隆先生（帝京大学整形外科教授）に「難治骨折の治療」というタイトルで、招待講演として Myung-Sang Moon 先生（The Catholic University, Korea）に「Unstable Lumbar Spine」、James V. Bono 先生（New England Baptist Hospital, US）に「Achieving Stability and Leg Length Equality in Total Hip Arthroplas-

*旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

ty」というタイトルで、教育講演として紺野慎一先生（福島県立医科大学整形外科教授）に「外傷性頸部症候群」、近藤誠先生（大分大学人工関節学講座准教授）に「TKAにおけるバランス調節の重要性とその手技の実際」、中村俊康先生（慶應義塾大学整形外科講師）に「手関節尺側部痛の診断と治療」というタイトルで御講演頂きました。また、「脊椎インスツルメントのリスクとベネフィット」、「大腿骨頸部/転子部骨折の診断・治療・予後 -日本整形外科学会診療ガイドライン改訂に際して-」、「病院内での転倒予防 ~その意義と対策~」、「小児神経原性足部変形の治療体系」というテーマでシンポジウムを組ませて頂きました。

また、手術ビデオ演題やアジアからの留学生に発表して頂くセッションも行いました。

学会前日の晩餐会には旭川医科大学から吉田晃敏学長、上田順子看護部長に出席頂き吉田学長に挨拶を頂きました。[写真4] また、前巨人軍監督堀内恒夫氏に「巨人軍監督論」というタイトルで御講演頂きました。



[写真4]

看護のシンポジウム・主題・一般演題では旭川医科大学病院から外川恵子看護師長、日野岡蘭子看護師長、齊藤恵子看護副師長をはじめ8階西病棟の皆さまにシンポジスト・座長・演者として御参加頂きました。

東日本整形災害外科学会は温泉に入ったあと浴衣姿で胸襟を開いた話がしたいという趣旨の歴史を持つとのことで、観光都市小樽で開催しました。学会期間中は天気にも恵まれ会場のテラスからは小樽の海、マリナー、停泊していた豪華客船を見ることができました。[写真5] 会場は小樽運河、すし屋横町からも



[写真5]

近く学会の合間には観光も楽しんで頂けたのではないかと思います。また、イラストレータである松縄香弦里さんにデザインして頂いたエコバックを学会バックとして配り、松縄さんのイラスト展示も行いました。

[写真6]



[写真6]

第58回東日本整形災害外科学会開催のため、本学関係者から頂いたご支援、ご協力に心から感謝致しますとともに、本学会を成功の裡に終了できお礼申し上げます。

なお、旭川医科大学整形外科学講座は、2011年2月に第41回日本人工関節学会を主催いたします。ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。